

＜書 評＞

Ludwig Guttman 著

市川宣恭 監訳

身体障害者のスポーツ

武智秀夫（岡山大学整形外科）

本書の著者の Guttman 卿は、私の伝え聞いているところでは、もともと神経外科医で Breslau（現在の Wrocław）で Foerster の助教授をしており、第2次大戦の勃発とともに、Hitler に追われ英国に亡命した人であるという。そして英国で大戦による脊髄損傷を多く治療し、一つの体系を作りあげ Stoke Mandeville 病院は脊損治療のメッカといわれるまでになった。同時にまた Guttman 卿は脊髄損傷の治療体系に早くからスポーツを取り入れ、その効果が著しいところから1948年から Stoke Mandeville 競技大会が毎年開催された。これが発展したのがパラリンピックである。

以上のような経緯を知って本書を読むと、第4章「脊髄性対麻痺者と四肢麻痺者の車椅子スポーツ」と第5章「麻痺障害者の各スポーツにおける競技技術の習得」の2つの章が他の章よりも大変詳細に記述してあるのがよく理解できると思う。すなわち脊髄麻痺に対してのスポーツのやり方は完成されたものと考えてよい。

本書の前段では「スポーツに関する一般的考察」、「スポーツと身体障害」、「身体障害者スポーツの発展」の3章で総論的な記述があり、実に概念的によく書かれている。

脊髄損傷のほか、「切断者のスポーツ」、「視覚障害者のスポーツ」、

「脳性麻痺者のスポーツ」、「聴覚障害者のスポーツ」が各論として述べられているが、こちらの方は著者の専門分野と異なるためか記述の分量が少いようである。しかしこれは脊損患者のスポーツほど専門家がいなかったことの裏返しかもしれぬと思う。

ともあれ、身体障害者のスポーツについてこの Guttman 卿の著書ほど総論から各論まで先見性と哲学をもって書かれたものはなく、私も身体障害者に接する者としていつも座右においていたのである。

今度、この分野で御活躍の市川宣恭博士の監訳により、訳書が上梓されたのはまことに当をえたもので、訳文も平易であり、わが国の身体障害者スポーツに関係する方々にとって一大福音となろう。市川博士の御労苦に御礼を申し上げる次第である。

（B5，頁168，1983，¥3,800，
医歯薬出版 刊）